

山本史郎教授最終講義

2019年

3月9日（土）

午後4時半～6時（受付開始4時）

演題
場所
翻訳論の課題

東京大学駒場キャンパス18号館ホール

問い合わせ：
yamamotosensei.saishukougi@gmail.com



来 し 方

1954年

6月21日：和歌山市にて誕生

1956(?)

～1958(?)：和歌山県新宮市で過ごす

1959年4月：和歌山市立岡山幼稚園入園

1961年3月：和歌山市立岡山幼稚園卒園

1961年4月：和歌山市立雄湊小学校入学

1967年3月：和歌山市立雄湊小学校卒業

1967年4月：和歌山市立伏虎中学校入学

1970年3月：和歌山市立伏虎中学校卒業

1970年4月：和歌山県立桐蔭高等学校入学

1973年3月：和歌山県立桐蔭高等学校卒業

1973年4月：東京大学文科3類入学

1975年4月：東京大学教養学部教養学科イギリス分科進学

1976年10月：ロンドン大学ウェストフィールド・コレッジ留学
サンケイスカラーシップ奨学金

1977年10月：東京大学復学

1978年3月：東京大学教養学部卒業

1978年4月：東京大学大学院人文科学研究科修士課程（英語英文学専攻）入学

1980年3月：同修士課程修了

1980年4月：東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学

1981年3月：同博士課程中途退学

仕 事

1981年4月：大阪市立大学文学部助手

1984年4月：大阪市立大学文学部講師

1987年4月：東京大学教養学部助教授

1996年4月：東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻言語情報処理講座助教授

1997年4月：東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻言語情報解析講座教授

1998年4月～1999年3月：

ロンドン大学バークベック・コレッジにて客員研究員

現在にいたる



1987.4 いざ駒場へ!



1990? 小峰公園にて



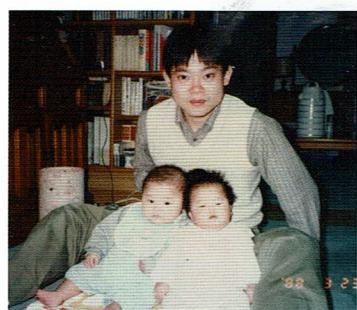
1990? アイリス・マードック!



1987.11 人文対外国語の野球戦



1990? 英語教室宴会(熱海にて)



1988.3 双子をかかえて



1998.4 イギリスへの旅立



1998.9 グラスゴーにて

1990? 日原鍾乳洞



2005? 英語主任室にて





2004.3
イギリス科
卒業パーティ



2005.7
ソウルからの
お客様



2006.5
英語部会 FD

2013.1 ピアードさんと酒盛り



2018.1 家族の肖像



2013.9
「翻訳論」打ち上げ



仕事一覧

A. 単著

- 『東大の教室で「赤毛のアン」を読む－英文学を遊ぶ9章』、東京大学出版会、2008年10月、197p
- 『東大講義に学ぶ英語パーエクトリーディング』、株式会社DHC、2010年4月、229p
- 『名作英文学を読み直す』、講談社(選書メチ)、2011年2月、294p
- 『東大の教室で「赤毛のアン」を読む－英文学を遊ぶ9章+授業のあとオマケつき』(増補改訂版)、東京大学出版会、2014年9月、215p
- 『読み切り世界文学』、朝日新聞出版、2015年9月、308p

B. 共著

- 『大人のための英語教科書』(ブレンダン・ウィルソンとの共著)、IBCパブリッシング、2008年7月、221p
- 『東大英単』(他5人の共著)、東京大学出版会、2009年3月、257p
- 『世界の今に切り込む(Eat the World Alive)』(作家リチャード・ビアードと共に著の大学用英語教科書)、成美堂、2010年1月、103p
- 『英語力を鍛えたいなら、あえて訳す!』(森田修との共著)、日本経済新聞出版社、2011年11月、189p
- 『教養英語読本I』東京大学出版会、編集代表(素材の収集、註釈の執筆)、2013年2月
- 『教養英語読本II』東京大学出版会、編集代表(素材の収集、註釈の執筆)、2013年7月
- 『近現代イギリス小説と「所有」』(南井正廣、三宅敦子、高桑晴子との共著; 第4章「愛と所有－イギリスにおける愛の『パワーポリティックス』」の執筆、第5章「イギリス小説における所有－シンポジオン」のとりまとめ・執筆を担当)、英宝社、2014年8月、212p
- 『毎日の日本－英語で話す！まるごとJAPAN』(James M. Vardanamとの共著)、朝日新聞出版、2015年3月、181p

C. 修士論文

Psychological Realism in Little Dorrit、東京大学大学院人文科学研究科修士過程(英語英文学専攻)、修士論文、文学修士、1980年3月、144p

D. 論文

- 「『リトル・ドリット』は象徴的作品か」、「リーディング」第1号、東京大学英文学研究会、1981年2月、pp.56-71.
- 「"Great Expectations"—主人公の罪意識をめぐって」、「人文研究」第33巻、大阪市立大学文学部、1981年12月、pp.57-69
- 「Two Scrooges or One?—"Christmas Carol" における二人のディケンズ」、「人文研究」第34巻、大阪市立大学文学部、1982年12月、pp.74-86
- 「"Bleak House" におけるCHANCERY」、「英文学研究」第60巻第1号、日本英文学会、1983年、pp.61-73
- 「Iris Murdoch の "The Sea, the Sea" における『現実』と『非現実』」、「人文研究」第35巻、大阪市立大学文学部1983年12月、pp.1-16
- 「"A Word Child" 試論」、「英國小説研究」第14号、「英國小説研究」同人、1984年12月、pp.159-183
- 「"The Unicorn"—宗教的象徴の研究」、「人文研究」第36巻、大阪市立大学文学部、1983年12月、pp.65-84
- 「Graham Greene におけるサスペンスの構造—"The End of the Affair" の世界に神は在します乎」、「人文研究」第37巻、大阪市立大学文学部、1985年12月、pp.67-82
- Hard Times: *Forms and Content*, Studies in English Literature English Number 1988、日本英文学会、1988年3月、p.35-50
- 「ドンビー氏とカトル船長」、「英國小説研究」第15号、「英國小説研究」同人、1988年10月、pp.42-70
- 「ディケンズ小説における社会批判」、平成元・2年度科学的研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書1990年3月、pp.53-65
- 「『二都物語』—二兎を追うヒーローの物語」、「外国語科研究紀要(英語教室論文集)」第38巻、東京大学教養学部外国語科、1990年3月、pp.141-160
- "Disciplined Heart" and the Sense of Maturity、「外国語科研究紀要(英語教室論文集)」第39巻、東京大学教養学部外国語科、1991年3月、pp.80-89

14. Dickens and the Theatre -- The Relationship between Dickens and the Art of Physical Representation、平成3・4年度科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書、1992年3月、pp.46-76
15. 『ディケンズ小事典』松村昌家編、研究社出版、1994年1月、202p、第4章：「名作ダイジェスト」、pp.63-84
16. 「ECS - 英語 II のための学生振り分けプログラム」、「外国語科研究紀要(英語教室論文集)」第41巻、東京大学教養学部外国語科、1994年3月、pp.169-190
17. 「SEARCH - 活用形を含む複数単語同時検索ソフト」、「LANGUAGE INFORMATION TEXT」Vol 1、東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻、1994年3月、pp.183-196
18. 「複数単語同時検索ツール "SEARCH"」、平成6・7・8年度科学研究費補助金(一般研究(A))研究成果報告書、1997年3月、pp.80-133
19. 「John Schad 編 Dickens Refigured: Bodies, Desires and Other Histories 書評」、「英文学研究」、第74巻2号 日本英文学会、1998年2月、pp.199-203
20. 「統計ソフト TOKEI について」、平成9・10・11年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書(課題番号09610469)、2000年3月、pp.2-31
21. 「ECS2 : 英語 II の新しい振り分けプログラムについて」、「LANGUAGE INFORMATION TEXT」Vol 7、東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻、2000年3月、pp.95-114
22. 「ファンタジーとユーモア - ツールキンを中心に」、「神奈川文化No.391」(2002年春季号)、神奈川県立図書官、2002年3月、pp.1-8
23. 「階級と社会の言語態」、石田英敬・小森陽一編『社会の言語態』(シリーズ言語態5、東京大学出版会、2002年4月)、pp.211-228
24. 「非凡な凡人—ハンフリー・ハウスとディケンズ」、「ディケンズフェロウシップ日本支部年報」第25号、2002年10月、pp.174-183
25. 「テクストの産婆術」、斎藤兆史編『英語の教え方学び方』(東京大学出版会、2003年6月)、pp.9-32
26. 「大人も楽しめるファンタジーの世界」、「英語教育」、2004年10月増刊号、大修館、pp.40-43
27. 『ディケンズ鑑賞大事典』西條隆雄他編、南雲堂、2007年5月、836p、IV-4:「社会活動」、pp.534-555
28. 「ジェイン・オースティンとロイヤルネイビー——『ジェイン海軍年鑑』をどう読むか?」、海老根宏・高橋和久編『一九世紀「英國」小説の展開』(松柏社、2014年6月)、pp.89-113
29. 「ミシズ・ギャスケルの『クランファド』」、「ギャスケル論集」、第24号、日本ギャスケル協会、2014年9月 pp.13-35
30. 「『二都物語』解説、ディケンズ年譜」(光文社『二都物語(下)』)、光文社、2016年3月20日、pp.300-346)
31. 「『雪国』の白い闇」、国文学研究資料館編『もう一つの日本文学史』(勉誠出版、2016年3月)、pp.273-282
32. 「エリオットを訳す-翻訳論から見えてくる風景-」、「ジョージ・エリオット研究」、第20号、日本ジョージ・エリオット協会、2018年11月、pp.1-18

E. 翻訳(単独訳)

1. ロバート・サウジー著『ネルソン提督伝』、原書房、1992年5月、428p
2. アンドレア・ホプキンズ著『図説アーサー王物語』、原書房、1995年4月、349p
3. ローナン・コグラン著『図説アーサー王伝説事典』、原書房、1996年8月、316p
4. J.R.R.トールキン著『ホビット』、原書房、1997年11月、448p
5. ディヴィッド・ディ著『図説アーサー王の世界』、原書房、1997年11月、260p
6. J.R.R.トールキン著『ファンタジー画集：トールキンの世界』、原書房、1998年2月、142p
7. イアン・ツァイセック著『図説ケルト神話物語』、原書房、1998年6月、286p
8. クリストファー・ヒバート著『女王エリザベス(上)』、原書房、1998年10月、279p
9. クリストファー・ヒバート著『女王エリザベス(下)』、原書房、1998年10月、251p
10. J.R.R.トールキン著『仔犬のローヴァーの冒險』、原書房、1999年6月、227p
11. ジョゼフ・ジェイコブズ著『ケルト妖精物語 I』、原書房、1999年9月、290p
12. ジョゼフ・ジェイコブズ著『ケルト妖精物語 II』、原書房、1999年10月、272p
13. J.R.R.トールキン著『絵物語 ホビット』、原書房、1999年10月、135p
14. ルーシー・モード・モンゴメリー著『完全版 赤毛のアン』、原書房、1999年11月、677p
15. ハンス・クリスチャン・アンデルセン著『アンデルセン・クラシック 9つの物語』、原書房、1999年12月 165p
16. ジョナサン・ディー著『図説エジプト神話物語』、原書房、2000年3月、268p
17. ローラ・フォアマン他著『ナイルの海戦 - ナポレオンとネルソン』、原書房、2000年5月、295p
18. ピーター・ディキンソン著『魔術師マーリンの夢』、原書房、2000年7月、258p
19. ローズマリ・サトクリフ著『アーサー王と円卓の騎士』、原書房、2001年2月、420p
20. ローズマリ・サトクリフ著『アーサー王と聖杯の物語』、原書房、2001年3月、265p
21. ローズマリ・サトクリフ著『アーサー王最後の戦い』、原書房、2001年4月、265p
22. ローズマリ・サトクリフ著『トロイアの前の黒い船』、原書房、2001年9月、277p

23. ローズマリ・サトクリフ著『オデュッセウスの冒険』、原書房、2001年9月、249p
24. クリストファー・スナイダー著『図説アーサー王百科』、原書房、2002年3月、350p
25. ローズマリ・サトクリフ著『剣の歌』、原書房、2002年3月、392p
26. ローズマリ・サトクリフ著『落日の剣(下)』、原書房、2002年11月、410p
27. ローズマリ・サトクリフ著『落日の剣(上)』、原書房、2002年11月、445p
28. J.R.R.トールキン編訳『サー・ガウェインと緑の騎士』、原書房、2003年2月、256p
29. ローズマリ・サトクリフ著『山羊座の腕輪』、原書房、2003年4月、249p
30. ローズマリ・サトクリフ著『ヒース、桜、オリーブ—三つの冠の物語』、原書房、2003年5月、228p
31. デイヴィッド・ディ著『アーサー王伝説物語』、原書房、2003年5月、260p (1997年刊『図説アーサー王の世界』の再版)
32. ピーター・ディキンソン著『聖書伝説物語』、原書房、2003年9月、347p
33. ローズマリ・サトクリフ著『シールド・リング』、原書房、2003年12月、374p
34. ブレンダン・ウィルソン著『自分で考えてみる哲学』、東京大学出版会、2004年4月、297p
35. ロバート・サウジー著『ネルソン提督伝(上)』、原書房、2004年7月、262p (1992年刊の同名の本の再版)
36. ロバート・サウジー著『ネルソン提督伝(下)』、原書房、2004年7月、246p (1992年刊の同名の本の再版)
37. ローズマリ・サトクリフ著『ロビン・フッド物語』、原書房、2004年7月、354p
38. ローズマリ・サトクリフ著『英雄アルキビアデスの物語(上)』、原書房、2005年2月、344p
39. ローズマリ・サトクリフ著『英雄アルキビアデスの物語(下)』、原書房、2005年2月、361p
40. ウルフ・エルリンソン著『アトランティスは沈まなかった—伝説を読み解く考古地理学』、原書房、2005年3月、191p
41. コリン・ホワイト著『ネルソン提督大事典』、原書房、2005年7月、473p
42. ロイ・アドキンズ著『トラファルガル海戦物語(上)』、原書房、2005年10月、253p
43. ロイ・アドキンズ著『トラファルガル海戦物語(下)』、原書房、2005年10月、265p
44. ローズマリ・サトクリフ著『血と砂—愛と死のアラビア(上)』、原書房、2007年4月、294p
45. ローズマリ・サトクリフ著『血と砂—愛と死のアラビア(下)』、原書房、2007年4月、319p
46. ローズマリ・サトクリフ著『女王エリザベスと寵臣ウォルター・ローリー(上)』、原書房、2007年12月280p
47. ローズマリ・サトクリフ著『女王エリザベスと寵臣ウォルター・ローリー(下)』、原書房、2007年12月311p
48. サミュエル・スマイルズ著『イギリス流 大人の気骨 –スマイルズの「自助論」エッセンス版』、講談社、2008年4月、189p
49. ローズマリ・サトクリフ著『白馬の騎士(上)』、原書房、2008年11月、254p
50. ローズマリ・サトクリフ著『白馬の騎士(下)』、原書房、2008年11月、252p
51. ロザリンド・ガーウェン『アーサー王伝説 – 7つの絵物語』、原書房、2012年2月、288p
52. ウエイン・G・ハ蒙ド、クリスティナ・スカル著『トールキンの「ホビット」イメージ図鑑』、原書房、2012年10月、146p
53. J.R.R.トールキン著『ホビット -- ゆきてかえりし物語(上)』、原書房、2012年11月、362p (Douglas Anderson著 'The Annotated Hobbit' (2002年改訂版)の第1章から第7章までの翻訳。訳者によるエッセイ「はじめて『ホビット』を読まれる少年少女の皆さんへ」及び「訳者あとがき – 今回の改訂作業について」の執筆を含む)
54. J.R.R.トールキン著『ホビット -- ゆきてかえりし物語(下)』、原書房、2012年11月、416p (Douglas Anderson著 'The Annotated Hobbit' (2002年改訂版)の第8章から第19章まで、および付録「エレボールの探求」の翻訳。訳者によるエッセイ「解説(その1) -- 作者トールキン、そして『ホビット』という物語」、及び「解説(その2) – トールキンの英語表現を知ることで、物語をより深く理解したい方々のために」の執筆を含む)
55. J.R.R.トールキン著『ホビット -- ゆきてかえりし物語(愛蔵版)』、原書房、2012年11月、514p (Douglas Anderson著 'The Annotated Hobbit' (2002年改訂版)の本文、註釈、付録「エレボールの探求」等の翻訳。訳者によるエッセイ「はじめて『ホビット』を読まれる少年少女の皆さんへ」、「解説(その1) -- 作者トールキン、そして『ホビット』という物語」、及び「解説(その2) – トールキンの英語表現を知ることで、物語をより深く理解したい方々のために」、訳者あとがき – 今回の改訂作業について」の執筆を含む)
56. ビル・ローズ著『図説 世界史を変えた50の鉄道』、原書房、2014年2月、224p
57. ルーシー・モード・モンゴメリー著『完全版赤毛のアン』(全面改訳版)、原書房、2014年7月、676p

58. 新渡戸稻造著『武士道の一日一言』、朝日新聞出版、2017年7月、294p(新渡戸稻造著『一日一言』を現代語に訳したもの)

F. 翻訳(共訳)

1. ジョージ・スタイナー著『アンティゴネーの変貌』(海老根宏と共に訳)、みすず書房、1989年11月、pp.25-236 担当
2. レイ・チャエル・ストーム著『世界の神話百科(東洋編)』(山本泰子と共に訳)、原書房、2000年10月、479p、pp.169~348 を除いた部分および、全体の統一
3. マイケル・パーターソン著『図説ディケンズのロンドン案内』(監訳、3人の翻訳者の訳文の修正及び文体調整) 原書房、2010年2月、407p
4. チャールズ・ストロング著『SAS - 特殊部隊式 図解ロープワーク実践マニュアル』(北和丈と共に訳、文体の調整及び原著の図版・文章の修正約40か所)、原書房、2013年7月、312p

G. 高等学校等の英語教科書(検定及び非検定)の執筆・編集

1. 『The Crown English Series I』、三省堂、共著、1994年4月より高等学校などにおいて使用、関連する『Teachers Manual』および『ワークブック』の執筆・校閲を含む
2. 『The Crown English Series II』、三省堂、共著、1995年4月より高等学校などにおいて使用、同上
3. 『The Crown English Series Reading』三省堂、共著、1996年4月より高等学校などにおいて使用、同上
4. 『The Crown English Series I 改訂版』、三省堂、代表著者、1998年4月より高等学校などにおいて使用、関連する『Teachers Manual』および『ワークブック』の執筆・校閲を含む
5. 『The Crown English Series II 改訂版』、三省堂、代表著者、1999年4月より高等学校などにおいて使用、同上
6. 『The Crown English Series Reading 改訂版』三省堂、代表著者、2000年4月より高等学校などにおいて使用、同上
7. 『The CROWN PLUS English Series Level 3』三省堂、代表著者(松坂ヒロシ、Brendan Wilsonと共に著)、非検定の英語教科書、(2002年10月より高等学校等で使用。関連する『Teachers Manual』の執筆・校閲を含む)、2003年2月
8. 『The CROWN PLUS English Series Level 4』三省堂、代表著者(Brendan Wilsonと共に著)、非検定の英語教科書、(2004年4月より高等学校等で使用。関連する『Teachers Manual』の執筆・校閲を含む)、2004年3月
9. 『The CROWN PLUS English Series Level 1』三省堂、代表著者(Brendan Wilson、その他2名と共に著)、非検定の英語教科書、(2006年4月より中等学校等で使用。関連する『Teachers Manual』の執筆・校閲を含む)、2006年3月
10. 『The CROWN PLUS English Series Level 2』三省堂、代表著者(Brendan Wilson、その他2名と共に著)、非検定の英語教科書、(2006年4月より中等学校等で使用。関連する『Teachers Manual』の執筆・校閲を含む)、2006年3月
11. 『The CROWN PLUS English Series Level 3 (Revised Edition)』三省堂、代表著者 (Brendan Wilsonと共に著)、非検定の英語教科書、(2009年10月より高等学校等で使用。関連する『Teachers Manual』の執筆・校閲を含む)、2009年9月
12. 『The CROWN PLUS English Series Level 3 (New Edition)』三省堂、代表著者(Brendan Wilsonと共に著)、非検定の英語教科書、前版を大幅改訂したもの(2012年10月より高等学校等で先行使用。関連する『Teachers Manual』及び『Workbook』の執筆・校閲を含む)、2012年11月
13. 『The CROWN PLUS English Series Level 4 (New Edition)』三省堂、代表著者(Brendan Wilsonと共に著)、非検定の英語教科書、前版を大幅改訂したもの(関連する『Teachers Manual』及び『Workbook』の執筆・校閲を含む)、2013年11月

H. 事典等の項目

1. 『小学館ランダムハウス改定版』(1994年刊)、数項目担当
2. 『集英社世界文学辞典』(2002年刊)、数項目担当(E.アンブラー、ジュリアン・バーンズ、マコーリーなど)
3. 『イギリス文化事典』(大修館、2003年6月刊)、「道路」、「船」、「鉄道」、「運河」、「郵便」の項目担当。
4. 『漱石事典』(翰林書房、2017年5月刊)、「漱石とディケンズ」の1項目執筆
5. 『イギリス事典』、丸善(予定)

I. その他

1. 「ディケンズとともに」、教養学部報、東京大学教養学部、1988年12月、定年退官の小松原茂雄教授を送る文章
2. 書評：下条信輔著『まなざしの誕生』、教養学部報、東京大学教養学部、1989年
3. 書評：富山太佳夫著『女が空から降ってくる』「週刊読書人」、1993年10月
4. 「英語の辞書について」、「週刊読書人」、1995年3月
5. 『アーサー王物語』阿刀田高著、講談社、1998年9月、310p、「解説」、pp.302-310
6. 「ロンドン畜産記」、教養学部報、東京大学教養学部、1999年10月
7. 「翻訳者に聞く：トールキン『ホビット』から『仔犬のローヴァーの冒険』へ」(雑誌『翻訳の世界』インタビュー録)、「翻訳の世界」1999年11月号、p.44
8. 「言葉に言い尽くせない衝撃」、メゾソプラノ歌手内藤明美リサイタルのパンフレット、1999年11月
9. 『The Expanding Universe II』、東京大学出版会(p.109の詩の翻訳)、2000年3月
10. 書評：松村昌家教授古希記念論文集刊行会編『ヴィクトリア朝』「ディケンズフェロウシップ日本支部年報」第23号、2000年10月
11. エッセイ「海の世界の税金どうぼう?」、バベル・プレス刊「e-トランス誌」、2000年12月、pp.78-9
12. 書評：松本侑子著『赤毛のアンに隠されたシェイクスピア』「週間読書人」、2001年3月
13. 「The Hobbit の物語」(映画『ロード・オブ・ザ・リング』劇場用パンフレット)、松竹株式会社、2002年3月、p.30
14. 「『ホビット』訳者から編集者への手紙」、「指輪物語」のファンタジー・ワールド、コアラブックス、2002年3月、pp.124-5
15. 「Monody-Canticles -- for solo flute」、「神戸女学院大学論集第48巻第3号」(神戸女学院大学研究所)2002年3月、(石黒晶作曲「モノディ・カンティカルス」序文の英訳)
16. 「理想の教科書『CROWN PLUS English Series Level 3』」、「高校英語教育」(三省堂出版)2002年秋号、pp.18-9
17. 書評：ローズマリ・サトクリフ著『アネイリンの歌』「週間読書人」、2003年2月
18. 「教官が語る進学のための学科紹介 イギリス地域文化研究分科」、「東京大学新聞」、2003年6月
19. 「Shadowy Trees -- From "Pastoral Poem", A Quintet for Ondes Martenot, String Trio and Harpsichord」、「神戸女学院大学論集第50巻第1号」(神戸女学院大学研究所)、2003年7月、(石黒晶作曲「影なす樹々」序文の英訳)
20. 「さらなる飛躍『CROWN PLUS Level 4』」、「高校英語教育」(三省堂出版)2004年夏号、p.32
21. 『アトランティスは沈まなかった』、「東京新聞」2005年4月28日夕刊第7面、「翻訳ほりだし物」欄
22. 「トラファルガル遠望」、「イギリス科ニュースレター」No.11、2005年10月、P.2
23. 映画「エリザベス: ゴールデン・エイジ」の劇場用パンフレット(人物紹介、キーワード等執筆、及び「相關図・年表」監修)、東宝ステラ出版部、2008年2月、pp.8-11
24. 「トマス・キースーイギリスのサムライ、砂漠に死す」(宝塚大劇場・花組公演「愛と死のアラビア」の劇場用パンフレット)、株式会社阪急「ミシズ・ギャスケルの『クランファード』」(日本ギャスケル協会第25回大会での講演、2013年10月5日、中央大学駿河台記念館コミュニケーションズ、2008年5月
25. 「東大・山本教授の物語で読む英文法講座」(「NHK 英語でしゃべらナイト」)アスコム、2008年5月 pp.51-66
26. 「感染するしあわせ」(劇団四季月刊誌「ラ・アルプ」)劇団四季刊、2008年6月、pp.16-17
27. 「アーサー王と聖剣エクスカリバーの伝説って何だ! ?」(2009年3月12日付け「朝日小学生新聞」の特集記事の監修)
28. 「著者に聞く」(『東大の教室で「赤毛のアン」を読む』についてのインタビュー記事)、東京大学新聞『後期合格記念号』、2009年3月22日(7面)
29. 「東大教師が新入生にすすめる本」(「UP」)東京大学出版会、2009年4月、pp.3-5
30. 「著者インタビュー」(『東大の教室で「赤毛のアン」を読む』についてのインタビュー記事)、毎日新聞、2009年4月19日(11面)
31. 「東大教員からの勉強法アドバイス」(英語)東京大学新聞2009年9月15日(9面)
32. 「戦艦ヴィクトリー物語」、「Ship & Ocean Newsletter No. 227」(海洋政策研究財団)、2010年1月20日、pp.4-5
33. 「東大教員からの勉強法アドバイス」『東大2011 東大アラカルト』(東京大学新聞)、2010年7月23日、p.39
34. 「東大教員からの勉強法アドバイス」(インタビューに基づく特集記事)、「歌劇6月号」(阪急コミュニケーションズ)、2010年6月5日、pp.90-93)

36. ネルソンの歴史的名言を読み直す」「本」(講談社)、2011年3月、pp.13-15
37. 「語りえぬものを語る」(野矢茂樹著『語りえぬものを語る』の書評)、教養学部報、東京大学教養学部、2012年1月
38. 書評: チャールズ・ディケンズ著、佐々木徹訳、『大いなる遺産』、ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報、第35号、2012年11月20日、pp.62-69
39. 「ボクの『ラピュタ』は英國流」(「ジブリの教科書2 天空の城ラピュタ」所収)、文芸春秋社、2013年5月、pp.220-227
40. 「「教養英語」事始め --『教養英語読本』は「英語教育」をめざさない?」、教養学部報、東京大学教養学部2014年1月
41. 「目的別学習法 リーディング」、English Journal 4月号、アルク、2014年4月、pp.26-27
42. 「安西信一さんを悼む」、教養学部報、東京大学教養学部、2014年6月
43. 「増補版の発刊にあたって」(『東大の教室で「赤毛のアン」を読む』について)、「パブリッシャーズ・レビュー」(東京大学出版会の本棚、No.5、2014秋)、2014年11月15日
44. 「不遇を経て『アン』名作に」(東大教員が語る偉人伝)、東京大学新聞2015年1月13日(3面)
45. 「上島先生を追悼する」、「イギリス科ニュースレター」No.23、2015年9月、P.4
46. 「『物語る人』<ホモ・ファブラ>とは誰か?」「一冊の本」2015年9月号、朝日新聞出版、2015年9月1日、pp.8-9
47. 「原文の趣旨意識して」(『翻訳論』の講義についてのインタビュー記事)、東京大学新聞、2015年9月29日(3面)
48. 「翻訳とは何を訳すのか? - Oliver Twist から読み取れるもの -」(ディケンズ・フェロウシップ日本支部2017年度春季大会での講演報告)、ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報、第40号、2017年11月15日、pp.74-75

J. 学会発表等

1. 「昭和57年度、ディケンズ・フェロウシップ春季総会」、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、京都府立大学、1982年6月、講演、「Bleak House における CHANCERY」
2. 「日本英文学会第58回大会」、日本英文学会、関西大学、1986年5月18日、研究発表、「"Hard Times", F.R.Leavis, そしてもう一つの『伝統』」
3. 「昭和63年度、ディケンズ・フェロウシップ春季総会」、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、同志社大学1988年6月、シンポジウムにて発表、「"Dombe and Son"について」
4. 「平成2年度、ディケンズ・フェロウシップ春季大会」、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、広島大学、1990年6月、シンポジウムにて発表、「『二都物語』について」
5. 「バーバラ・ハーディ教授: "David Copperfield" セミナー」、慶應大学、慶應大学、1991年10月、発表、「"Disciplined Heart" and the Sense of Maturity」
6. 「日本英文学会第73回大会」、日本英文学会、学習院大学、2001年5月20日、研究発表第八室の司会
7. 「平成14年度、ディケンズ・フェロウシップ春季大会」、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、駒沢大学2002年6月8日、シンポジウムにて発表、「ハンフリー・ハウスについて」
8. 「平成20年度、ディケンズ・フェロウシップ秋季総会」、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、大阪学院大学2008年10月4日、研究発表の司会
9. 英文学会シンポジウム「英語・英米文学研究を英語教育にどう活かすか」司会、2009年5月31日、東京大学教養学部
10. 「イギリス文学と水・川・海」(東京大学総合研究会「第111回東京大学公開講座」での講義)、2009年10月24日、東京大学本郷キャンパス内安田講堂
11. 「オースティンとイギリス海軍 - ジェイン海軍年鑑をどう読むか」(日本オースティン協会第4回大会・シンポジウムにおける発表)、2010年7月3日、中京大学名古屋キャンパス
12. 「『マンスフィールド・パーク』とイギリス海軍」(斎藤英学塾にて特別講演)、2010年10月16日、東京大学駒場キャンパス18号館
13. 「児童文学のユーモアを翻訳する」(名古屋外国語大学「第22回英語教育講演会」にて講演)、2010年11月22日、名古屋外国語大学
14. 「様々なマクベスを見る」(斎藤英学塾にて特別講演)、2010年12月17日、東京大学駒場キャンパス18号館
15. 「東京大学の英語教育について」(平成23年度国立七大学外国語教育連絡協議会のシンポジウムでの講演)、2011年10月21日、九州大学(伊都キャンパス)
16. 「英語教育の変貌と今後の展開」(山形大学、平成24年度英語FDにて講演)、2012年9月21日、山形大学
17. 「Possess or Possessed? -- 近現代小説にみる所有」(日本英文学会第85回大会シンポジウムにおける司会、並びに発表)、2013年5月25日、東北大学(講師としての発表題名「愛と所有 - イギリス小説における愛のパワー・ポリティックス」)

18. 「英文学教育の現在」(日本英文学会関東支部 2013 年度夏季大会シンポジウム)における司会、2013 年 6 月 22 日、明治大学駿河台キャンパスリバティワー
19. 「ミシズ・ギャスケルの『クランファド』」(日本ギャスケル協会第 25 回大会での講演)、2013 年 10 月 5 日、中央大学駿河台記念館
20. 「『翻訳』とは何を訳すのか? — トールキンの作品を中心として」(第 41 回市大英文学会での講演) 2013 年 11 月 30 日、大阪市立大学学術情報センター 1 階文化交流室
21. 「東大で読む『赤毛のアン』-- 英語教育の将来的方向性」(江戸川大学「第 1 回英語教育研究会」での講演)、2014 年 10 月 17 日、江戸川大学駒木キャンパス
22. 「ファンタスティック・ファンタジー—トールキンのフレーズが振りまく『ホビット』の不思議なフレーバー」(東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻主催のシンポジウム「ポップ・カルチャーの言語態—ファンタジーとセクシュアリティ」での発表)、2015 年 5 月 19 日、東京大学駒場キャンパス 18 号館ホール
23. 講演司会(ディケンズ・フェロウシップ、平成 27 年度秋季総会)、2015 年 10 月 10 日、日本大学経済学部
24. 「日本人学生に英語をどう教えるか ~翻訳を通したコミュニケーション指導のあり方~」(江戸川大学「第 2 回英語教育研究会」での講演)、2015 年 10 月 17 日、江戸川大学駒木キャンパス
25. 「時間を翻訳する」(国際連携研究「日本文学のフォルム」第 3 回国際シンポジウム)のコメントーター(谷川憲一発表『クリスマス・キャロル』翻訳をめぐってへのコメント)、2015 年 12 月 12 日、国文学研究資料館 2 階 大会議室
26. 「『教養英語読本』の執筆にあたって」(シンポジウム「東京大学(駒場)の英語教育の今」における発表)、2016 年 2 月 6 日、東京大学駒場キャンパス KOMCEE EAST K011
27. 「私の『アクティヴラーニング』」(江戸川大学「第 3 回英語教育研究会」での講演)、2016 年 9 月 24 日、江戸川大学駒木キャンパス
28. 「翻訳とは何を訳すのか? - *Oliver Twist* から読み取れるもの -」(ディケンズ・フェロウシップ日本支部 2017 年度春季大会での講演)、2017 年 6 月 10 日、松山大学
29. 「リーディング力をどう鍛えるか - 多角的アプローチの提案」(江戸川大学「第 4 回英語教育研究会」での講演)、2017 年 9 月 16 日、江戸川大学駒木キャンパス
30. 「エリオットを訳す - 翻訳論から見えてくる風景 -」(日本ジョージ・エリオット協会第 21 回全国大会における特別講演)、2017 年 12 月 2 日、大東文化大学板橋キャンパス
31. 「文学の翻訳は異文化とどうつきあうのか?」(江戸川大学「第 5 回英語教育研究会」での講演) 2018 年 8 月 27 日、江戸川大学駒木キャンパス

K. 編集

1. 小松原茂雄著『ディケンズの世界』、三笠書房、遺稿の整理・編集、1989 年 11 月
2. 『The Universe of English』、東京大学出版会(編集者の 1 人として素材提供、註釈執筆)、1993 年 3 月

L. 作成したコンピュータプログラム

1. 「ecs」、1993 年 4 月、英語クラス振り分けのためのプログラム(1993 年度より実施のカリキュラム英語 II のために開発)、概要: 使用言語は C 言語 / 中心となる ecs.c が 918 行、その他の周辺プログラムと合計してトータル 1334 行 / その他に awk による振り分けの後処理のプログラム多数、C シェルスクリプトなどを含むシステム
2. 「icom」、1994 年 4 月、英語クラス振り分けのためのプログラム(1993 年度より実施のカリキュラム国際コミュニケーションのために開発)、概要: 使用言語は C 言語 / 中心となる icom.c が 681 行その他のプログラムを合わせて計 1200 行 / その他に awk による振り分けの後処理のプログラム多数、C シェルスクリプトなどを含むシステム
3. 「search」、1994 年 1 月、英語単語を自動的に活用させながら複数単語の同時出現の文脈を任意の範囲で検出するプログラム、概要: 使用言語は C 言語 / Makefile, data.h, search.h, sentence.h, delsharp.c, io.c, main.c, mod.c, sentence.c, word.c など合計で 2753 行
4. 「ecs2」、1999 年 8 月、英語クラス振り分けのためのプログラム(2002 年度より実施のカリキュラム英語 II のために開発)、概要: 使用言語は C 言語 / ecs2.c 本体は 2054 行
5. 「ykd」、1999 年 8 月、1993 年版の ecs を基にして横浜国立大学のために作成した英語クラス振り分けプログラム、概要: 使用言語は C 言語 / yk_ecs.c は 567 行
6. 「tokei」、2000 年 3 月、文学作品などの特定単語を中心とする一定の範囲における単語出現頻度を検出するプログラム、概要: 使用言語は C 言語 / Makefile, ST.c, io.c, main.c, mod.c, tokei.c, sentence.c, word.c, wst.c, wst2.c, data.h, search.h, sentence.h など合計 5086 行

